



庄司まさひろ 県政レポート



庄司まさひろ県政報告

自民党富山県議会議員会

令和2年8月7日発行

発行者 庄司昌弘

〒930-0142 富山市吉作971-1ペアハウスA TEL.076-471-5443 FAX.076-471-5446
HP www.shojimasahiro.com E-mail s_masahiro@outlook.com

第3号



ごあいさつ

富山県は歴史的に度重なる洪水と戦い、川を治め、ダムを作り、そのエネルギーを電力に変えて、ものづくり産業などの仕事を生み出し、豊富な水を利用した稲作中心の兼業農業を発展させてきました。これまでの先人の苦労に感謝し、今ある物や自然環境を最大限に活用して環境に配慮した持続可能な社会を再生・創造していかなければなりません。

新型コロナウイルスの影響によって、私たちの暮らしは大きく変化しました。テレワークやオンライン授業などをはじめとした「分散化」「デジタル化」が加速しています。今、日本は東京一極集中から地方分散型の社会へと変わる転機

となっています。この新しい時代を支えるのは未来の子供たちです。

これからは、地方から世界的な視野で自ら考え行動し、本当の生きる力を持った人づくりを進めて行かなければなりません。ピンチをチャンスに変える創造力と少ない人数でも一人何役もこなせる多動力が必要となってきます。今こそ県民がお互いに協力し合い、これまでに実践してきた兼業の働き方を新しい形で地方創生に結びつけ、未来へと繋げていく時であると感じています。

庄司昌弘

GIGAスクール構想 ～学校における1人1台ICT端末～ (Global and Innovation Gateway for All)

児童生徒に対し1人1台の学習用PCの配備と、高速大容量の通信ネットワーク環境など、ハード・ソフト・人材を一体とした整備をすることで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子供たちの学びを保障できる環境を実現させる。



スマート農業の拠点整備と担い手の確保・育成について

質問 現在の農業機械研修センターを「スマート農業の拠点」とするとの事ですが、どのような整備をされるのか伺います。

回答▶知事 令和3年3月竣工予定で、研修棟を新築し、スマート農機の格納展示スペースや、研修室を整備する計画です。ドローンやトラクターのシミュレーターを活用した研修等を行うと共に経営管理システムの導入活用に向けた実習も行い、スマート農業技術を駆使できる担い手の育成や確保に精一杯努力して参ります。

スマート農業などのイノベーションと今ある環境を十分に生かした持続可能な農業の推進は喫緊の課題です。



安全・安心なまちづくりと富山のにぎわい創出について

質問 横断歩道や停止線などの白線が消えている。補修してもらうにはどうしたらいいのか。道路交通環境の整備について御所見をお伺いします。

回答▶警察本部長 横断歩道や停止線などの道路標示については、標示状況の調査、地域住民からの情報提供をもとに表示の薄くなった箇所を把握し、危険性の度合いも勘案しながら計画的な更新に努めており、特に通学路周辺の道路表示については、優先的

に取り扱い、可能な限り新学期までに塗り替えを完了できるよう努めているところであります。交通の安全と円滑の確保に向け、必要な予算を確保し、道路標示の適正な維持管理に努めてまいります。

道路交通環境の整備による歩行者等の交通事故対策も重要です。



富山を支える人づくりについて

質問 本県において外国人介護人材受け入れ支援についてどのように考えておられるのか伺います。

回答▶厚生部長 介護事業所等が行います外国人職員の日本語学習や技能向上に加え、外国人職員同士の仲間づくりのための研修費用を助成するとともに、海外での人材確保を支援するため、県及び県内介護事業所の魅力をPRする事業を新年度予算案に盛り込んでおります。県福祉人材確保対策会議の構成団体と連携をしながら、若者等への介護の魅力PRや就労支援、処遇改善を含みます定着支援などの施策の実施により、外国人を含みます多様な介護人材確保に向け取り組んでまいります。

全国的に介護事業所等で外国人の受け入れが活発化してきており、海外での優秀な人材確保に取り組んでいかなければなりません。



迅速なPCR検査体制の整備等について

質問 今後のPCR検査実施体制の整備・運用にどのような方針で取り組むのか、また、県厚生センターの機能強化についてどのような方針で取り組むのか。

回答▶厚生部長 PCR検査実施体制については、県衛生研究所での検査機器の追加配備、人員体制の強化、富山大学への検査委託、厚生センターでのPCR検査の実施などにより、6月下旬を目途に1日130件以上の検査が可能となる予定である。また、診療所等からの紹介により、PCR検査を受けられる「地域外来・検査センター」についても、富山医療圏・新川医療圏に引き続き、他の医療圏での早期開設に努めてまいります。厚生センターについては、新型コロナウイルス感染症対策において重要な役割を担っており、これまで職員を増員したほか、業務を見直し効率化を図るなど、体制の整備充実に努めてきている。引き続きの機能強化と感染症予防のための設備資材についても充実に努めてまいります。

民間検査機関におけるPCR検査の活用の促進や、県内の検査体制の更なる充実が必要です。



学校の長期休校の影響、再休校への備えとICT教育の一層の普及について

質問 学校の長期休校による児童生徒への心理的ケア並びに授業時数の確保や教員等の追加配置による教員の負担軽減やICTを活用した教育環境整備にどのように取り組んでいくのか。

回答▶教育長 学習面の遅れに対する不安や長期の在宅によるストレスを抱える児童生徒に対する心理的ケアが必要であることから、学校と保護者との連携を密にし、児童生徒の心身の状態の把握に努めスクールカウンセラー等の心の専門家と連携し、安心して学校生活を送れるよう支援の充実に努めている。不足する授業時数については、土曜日や長期休業期間中に授業日を設け、学習指導員の拡充や緊急スクール・サポートスタッフの増員配置によ

り、教師と児童生徒が向き合う時間の確保に努める。

また今後想定される感染症の第二波などの休校措置に備え、ICTを活用した教育環境を整備していくため、小中学校では、本年度でのタブレットの1人1台配備など、オンライン教育の積極的な推進に取り組んでまいります。

地域や家庭間の格差が生じないようなオンライン学習環境の整備が必要です。



観光復活に向けた取組みと観光戦略の見直しについて

質問 県内観光の再活性化と国内観光客の積極的誘致にどのように取り組むのか、また観光戦略の見直しにどのように取り組むのか、所見を問う。

回答▶知事 観光振興について、まず県内観光から取り組むこととしており、県民向け県内宿泊キャンペーンでは6月10日から第1期分募集を開始したが、2日間で9,420件3万581名分の応募をいただいた。今後、抽選と、第2期、第3期募集を順次行っていくが、この機会に県内観光地の魅力を再発見していただき、県内観光需要の速やかな回復につなげていきたい。

さらに国の「Go To Travel キャンペーン」を見据え、県内事業者による着地型旅行商品の支援、県産地場産品のインターネットでの割引販売に併せ、県外の購入者に対し富山県の観光情報をPRするなど、誘客促進の取組みを進めていく。一方で、観光産業にも「新しい生活様式」への対応が求められ、消費者の観光への意識・嗜好も変化しつつある。これを新たな需要掘り起こしのチャンスと捉え、地域ならではの観光資源の一層のブラッシュアップや、体験型・滞在型の新たな観光コンテンツの開発等の取組みも進めてまいります。

感染拡大防止対策を進めながらも、コロナ後の観光振興戦略を策定し、本県の観光資源に磨きをかけていかなければなりません。

